

世界にふれる、 世界を生きる

Touching the World, Living the World

その異なる生き様から生まれた作品のアンサンブル——絵画、彫刻、写真、映像——には、「記憶」という言葉から導かれる不思議な親和性があるように思われます。何ら交わることのなかった個の軌跡が、ともにある世界へと見るものを誘う、想像／創造の連鎖。本展が「生きるよすが」としてのアートの深みにふれていただける機会となることを願ってやみません。

増山たづ子

Tazuko Masuyama (1917-2006)



1978年 写真 増山たづ子の遺志を継ぐ館蔵

生前「カメラばあちゃん」の愛称で親しまれた増山たづ子。故郷の岐阜県旧徳山村と村民を記録するため、還暦を過ぎてから写真を始め、10万カットにも上る撮影を行った。徳山村は彼女の没後、ダムの建設によって消滅した。

This exhibition features five artists, creators who, by the very passion they gave to expression, transformed the invisible walls enclosing them into a bridge to new possibilities. For them, expression through art was a necessary action for living. Art became the energy source indispensable to their lives. “Passion can set even the sand aflame,” the poet Issui Yoshida once wrote. The passion displayed by these five people is testimony to the truth in Yoshida’s words. The five artists’ works — an ensemble of paintings, sculptures, photographs, and films — have almost no elements in common. Yet, they share an unusual affinity: the importance each assigns to “memory.” In our encounter with five creators who never met, we will feel moved to imaginatively enter each creator’s unexpected world. From this chain of experiences, we will derive a deep sense of the beauty and strength of art created as a means of living.

長年木こりを生業とした後、老人ホームで暮らしていた東は、83歳から本格的に絵筆を握り、大分県由布院の風景や人物画の制作に没頭。99歳で亡くなるまで、珠玉の水彩画100余点を描いた。

東勝吉

Katsukichi Higashi (1908-2007)



《高千穂の二上山》1995年 水彩、紙 由布院アーティストストック蔵

シルヴィア・ミニオ・パルウエルロ・保田

Silvia Minio-Paluello Yasuda (1934-2000)



《シエナの聖カタリナ像とその生涯の浮彫り》部分 1980-198年 フォンズ 愛媛県松山市・聖カタリナ大学蔵 photo 齋藤さたむ

イタリアのサレルノに生まれる。彫刻家であった夫を支え、家事と育児に専念する傍ら、寸暇を惜しみ、彫刻と絵画の制作にいそしんだ。敬虔なクリスチャンであった彼女の真摯な制作は、切実な祈りそのものだった。

Walls & Bridges

壁は橋になる

2021 7.22-10.9
thu sat

チェコのブラハに生まれる。反ナチス運動に関わり投獄され、強制収容所での体験を経て、後年アーティストとなった。中年を過ぎてから取り組んだ彫刻や絵画は、名状しがたい存在への問いを湛えている。



《十字架》制作年不詳（1970年代半ば以降）金属線 個人蔵 photo: Jana Hamplová

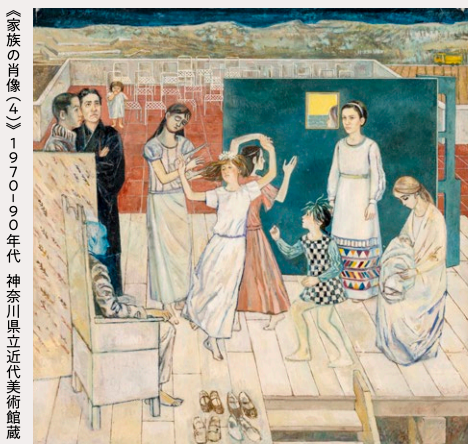
ズビニェク・セカル

Zbyněk Sekal (1923-1998)

【会期】2021年7月22日（木・祝）－10月9日（土）
【開室時間】9:30－17:30（入室は閉室の30分前まで）
【休室日】月曜日、9月21日（火）
但し、7月26日、8月2日、9日、30日、9月20日は開室
【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
*開催内容は都合により変更する場合がございます。

【観覧料】一般 800円
65歳以上 500円

*無料：学生以下、80歳以上（東勝吉に因みます）、外国籍の方、身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方（1名）。いずれも証明できるものをご持参ください。
*開催中の特別展のチケット（半券可）にて、一般料金より300円引き。
*都内の小学・中学・高校生ならびにこれらに準ずる者とその引率の教員が学校教育活動として観覧するときは無料（事前申請が必要）。



《家族の肖像4》1970-1990年代 神奈川県立近代美術館蔵

ジョナス・メカス

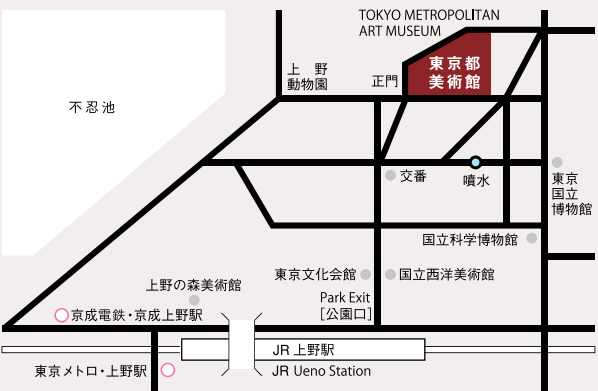
Jonas Mekas (1922-2019)



《ロッチ・ヤル》1960年（「歩みつつ垣間見た美しい時の数々」より）1990年 写真 個人蔵

リトアニア生まれ、難民キャンプを転々とした後、ニューヨークへ亡命。貧困と孤独のなか、中古の16ミリカメラにより身の回りの撮影を開始。実験映画の旗手として、類例のない数々の「日記映画」を残した。

Venue: Tokyo Metropolitan Art Museum
(8-36 Ueno-Park, Taito-ku, Tokyo 110-0007)
Organized by Tokyo Metropolitan Art Museum operated by Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture
Access: 7 minutes walking from JR “Ueno Station” Park Exit.
There are no parking facilities at the museum.
Period: Thursday, July 22-Saturday, October 9, 2021
Closed Mondays, September 21
(Open July 26, August 2, August 9, August 30, September 20)
Admission: General ¥800/ Senior 65+ ¥500/
College students and younger admitted free
* Admission is free for international visitors with a valid passport.
Admission also free for visitors of age 80 or older
(in recognition of featured artist Higashi Katsukichi’s art career).
Hours: 9:30-17:30 (Last admission 17:00)



〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36
https://www.tobikan.jp TEL.03-3823-6921

○JR「上野駅」公園口より徒歩7分
○東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」7番出口より徒歩10分
○京成電鉄「京成上野駅」より徒歩10分
*駐車場はございませんので、車での来場はご遠慮ください。

*展覧会は事前予約なしでご覧いただけます。但し、混雑時に入場制限を行う場合がございます。ご了承ください。
*発熱や風邪の症状があるなど、体調の優れない方はご来場をお控えください。
*ご来場の際は必ずマスクをご着用ください。会場内では会話を控えるなど、感染症対策へのご協力をお願いします。
*入館時に非接触型での体温測定をいたします。平熱と比べて高い発熱が確認された方はご入場をお断りする場合がございます。
*新型コロナウイルス感染拡大防止に関する取り組みについては、東京都美術館ウェブサイト https://www.tobikan.jp をご覧ください。